

生き物たちのアマミンピック

奄美市立朝日小学校 六年 吉永 佳乃子

小六の夏。一生忘れることのない体験をした。誰かに言いたいが、きつと寝ぼけていたのだと笑って信じてもらえないから、長いこと胸の奥にしまっていた。我ながら素敵な体験をしたと思っている。

あの夏も家に一人だった。両親は仕事だし、いつも夏休みは一人で気楽な時間を過ごす。小六の夏は、オリンピックピックが開さいされた年で、私はテレビでの連日のオリンピックピック観戦の夜ふかしで寝不足気味だった。宿題をしようとい机に向かっていたが、いつになくアカショウビンの声が気になった。春から夏が過ぎるまで、ここ奄美ではめずらしくない、聞きなれた声だが、今思えばその時は、やけににぎやかだった気がしている。

アカショウビンの鳴き声は格別に美しいなあ。なんて思っていたら、もうれつなすいまにおそわれた。

「ヒュー、パンパン。」

突然の音に目を覚ますと、そこは木々に囲まれた小高い丘にある広場のようだった。きよるきよる見渡すと、私の家の屋根が見えた。家の近くの裏山にこんな場所があるなんて。と信じられない気持ちでいたら、さらにそれ

を上回る出来事が目の前で起こっていた。日頃会いたいと思っていた、イシカワガエルやたまに会うルリカケス、まだ直には見たことがなかったアマミノクロウサギもいる。他の生きものたちもたくさんいる。いろんな場所に「二〇二一アマミンピック」と書いてある。さっきの音は、生き物オリンピックピックの開会式の花火だった。信じられない気持ちのまま競技場のような広場に入っていると、ざわめきとともに、盛大な拍手。みんなが私を見ている。司会のイシカワガエルが、

「人間代表で招待いたしました、リカさんです。私達の島が世界自然遺産に登録された喜ばしい年です。これからもっと人間と私達との交流を深めることができますように。」

温かく迎えてくれた生き物たちと一緒に競技を観戦した。アマミノクロウサギたちによる五十メートル走決勝は、大会の目玉だった。競技場は大歓声に包まれた。私の知るアマミノクロウサギは愛らしく、かわいらしい印象だったが、走り抜ける姿は、勇ましかった。結果はウサギンウサト選手の優勝だった。実況が言う。

「この種目での新記録はまさに三百年ぶりです。」
近くの池では飛び込み競技が行われていた。様々なカエルたちの中でひととき目を引くのはイシカワガエル。レオタードを身に付けたような美しさは有利だ。オットン

ガエルもいる。どちらも本物は初めて見た。最近の奄美大島の世界自然遺産登録のニュースで初めて知ったカエルたち。実況が言った。

「イシカワガエルのイシル選手の両親は人間にあと少しで連れ去られるところでしたが、危機一ぱつのところで助けられました。」

そんなことをする人間がいるのだと知って、申し訳なさと恥ずかしさから、穴があったら入りたくなくなった。と同時に、助けてと言えない生きも物たちを守らなければと思った。その後もリュウキュウアユによる八百メートル自由形やハブによる鉄ぼう等の競技を観戦した。

閉会式が始まった。げきのひろうがあり、人間がこわす森から逃げ出した生き物、人間の乗る車の事故で親せきや友達を失った生き物、人間が放ったノネコなどに苦しめられる生き物達が助けてと訴えてくる。私には重い内容だった。最後のあいさつで、

「アマミンピックでは、自然保護をになうあなたたち小学生を招待して、これからも訴えを続けていきます。リカさん、どうかお願いしますね。」

最後はアカシヨウビン達が合唱。あまりの美しさに感動し、ぞわぞわと鳥肌がたつた。

そしてまた急激に眠くなった。

気がつくくと、部屋の机で突つ伏して眠っていた。顔を

上げると、目の前の窓わくにちよこんとアカシヨウビンが留まつていて、私と目が合うとどこかへ飛んでいった。笑っていたような気がした。

あれから二十年。大人になった私は島のじゅう医師となり、動物病院を開いている。あの夏の体験は、私の心の奥にしまっている。口には出さないが、この島には私のような体験をしている子どもが何人もいる。彼らは島の自然や生き物を大切に思う気持ちをとくさん発信している。生き物たちのお願いに私は応えることができているのだろうか。今年もアカシヨウビンの鳴き声は美しい。

ここからは秘密の話だが、私の病院には、ウサギンウサト選手から指導を受けているウサギの選手達がねんざの治療にやってくる。夜になると私は、裏山へイシルの家族に会いに行き、夜の調べに耳をすます。これは私の密かな楽しみである。

【評】世界中を熱くした東京オリンピック・パラリンピック。奄美の森でも熱い戦いと、想いが発信されたようですね。競技を通して、動物たちの特徴や美しさをリズムよく表現し、熱戦の様子が浮かんでいきます。アカシヨウビンの鳴き声がとても印象的で自然保護について「自分でできることはなんだろう」と考えさせられます。二十年後のリカと奄美大島が現実となるよう願わずにはいられません。
(朝日小 教諭 白土 彩)